



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



登山者に指導する森林保護員（東信署管内）

新規事業

グリーン・サポート・スタッフによる 森林パトロールを実施

(P 3 に関連記事)

主な項目	○平成18年度永年勤続職員表彰式	P 2
	○自然の保護・保全活動の取り組み	P 3
	○各地からのたより	P 5



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



局幹部と精勤章（一級）を受章された皆さん



局幹部と精勤章（二級）を受章された皆さん

六月二十八日、平成十八年度中部森林管理局永年勤続職員表彰式が、長野市内のメルパルクNAGANOで行われました。

式典では、小禄局長から一級精勤章受章者並びに二級精勤章受章者に対し、永年にわたる国有林職員としての勤労を称えるとともに、精勤章の賞状が授与されました。

また、受章者を代表して森林整備部の清水信之さんから「国有林事業の使命を果たすため、今まで培った知識や技術を遺憾なく発揮していくことを本日の受章を機に改めて心に誓い、更に職務に精進する覚悟です。」との謝辞が述べられ、表彰式を終えました。

精勤章受章者は次の方々です。

◇一級精勤章

（勤続年数三十年以上）

- 事 佐藤 純子（経理課）
- 技 小池新太郎（治山課）
- 技 花井永二郎（名古屋所）
- 技 白木 達雄（〃）
- 技 岩井 佳子（〃）
- 技 勝野 幸男（ふれあいセ）
- 事 楯 直顕（伊那谷総合）
- 技 水間 慶一（富山署）
- 基 割田 正彦（北信署）
- 技 田中 昌之（中信署）
- 技 下岡 正幸（東信署）
- 基 菊池 富久（〃）
- 基 内堀 秀人（〃）
- 技 片岡 清和（南信署）
- 基 宮下 潔（〃）
- 基 山崎 清宣（〃）
- 技 清水 信之（森林整備部）
- 技 小澤 益幸（木曾署）
- 基 梅戸 吉男（〃）
- 基 今井 信夫（南木曾支署）
- 基 志水 洋平（〃）
- 基 北原 岩雄（〃）
- 基 各務 諭（〃）
- 技 岩本 道彦（岐阜署）
- 技 影山 成生（〃）
- 技 小瀬 弘一（東濃署）
- 技 安江 明雄（〃）
- 基 加地 希典（〃）

- 基 原 一友（東濃署）
- 基 原田 利光（〃）

三十名

◇二級精勤章

（勤続年数二十年以上）

- 技 林 満（職員厚生課）
- 技 今村 正之（〃）
- 技 古瀬 美樹（指導普及課）
- 技 北沢 伸之（販売課）
- 技 熊崎 裕文（森林技術セ）
- 基 大林 誠司（〃）
- 技 塩島 卓夫（北信署）
- 技 下平 明博（南信署）
- 技 遠山 京一（木曾署）
- 技 岡本 守（〃）
- 技 奥原 英（〃）
- 技 中嶋 章（飛騨署）
- 技 屋敷 昌司（〃）
- 技 都竹 昌和（岐阜署）
- 技 前田 英孝（〃）
- 技 山田 英人（東濃署）
- 技 安藤 達也（〃）
- 基 片田 源十（〃）

十八名





グリーン・サポート・スタッフによる森林巡視活動

「国有林野管理課」近年、森林とりわけ自然植生を残している国有林の天然生林への、入り込み利用者の増加や登山利用の集中化・大衆化等に伴い、入り込み利用者による植生荒廃や森林機能の低下が見られます。

このような天然生林を保全管理し、二酸化炭素の吸収源としての天然生林を確保するため、林野庁では新規事業として平成十八年度から「天然生林管理水準確保緊急対策」として、非常勤職員のグリーン・サポート・スタッフ（森林保護員）による指導・啓発活動に取り組んでいきます。

中部森林管理局では、管内の国有林に、希少な野生動植物も多く生息・生育していることや、日本百名山の三十八座を有し、天然生林への入り込み者が多いこと



活動する森林保護員（岐阜署管内）

などから、長野・富山・岐阜県の管内各地で本事業に取り組んでいます。

本格的な登山シーズンを迎え、入り込み者の多い時期を中心に、全国統一の制服を着用したグリーン・サポート・スタッフは、登山道の整備等とともに自然環境の保全、保護への啓発・指導活動に努めています。

北アルプスガイドブックの作成

「中信署」平成十六年度から始めた地域発案システムとして、「高山植物等保護活動の検証と今後の取り組みのための手法の改善」について取り組みました。管内は高山植物やライチョウ等の貴重な野生動植物の保護管理活動が長年行われ、山小屋従業員や登山案内人、自治体の保護巡視員など多くの方々が携わっています。そこで、これら関係者の活動をさらに推進するための一助として、高山植物の図鑑や関係法令、登山ルート等を編集した「北アルプスガイドブック」を制作しました。

二年間の地域発案の集大成として、保護活動の指導に必要な知識・情報の絞り込み、参考となる図書の検索、著作者への理解と協力を求めながら、美しい写真撮影の為に登山など、職員手作りの労作です。

各種会議等で配布していますが、評判が良く地元新聞にも掲載され、地域住民からの問い合わせが続いています。通常

業務の傍ら取り組んできた成果が予想以上の反響だっただけに、職員も大きな手応えを感じています。

今後は、グリーンパトロール隊員やグリーン・サポート・スタッフのマニキュアル本として活用すると共に、内容をより充実して、改訂版の増刷に向けたより良いガイドブックが作成できればと考えています。



作成したガイドブック

夜叉ヶ池ボランティアパトロール

夜叉ヶ池山開き開催される

「岐阜署」岐阜県揖斐川町商工会主催の夜叉ヶ池山開きが六月二十五日に開催され、岐阜署から四名が参加しました。

当日は、曇天というあいにくの天候となりましたが、山開きには五十名の登山者・関係者が集まり神事が行われました。

神事には夜叉龍神伝説のある地元、揖斐川町長、人身御供となった夜叉姫の地元である神戸町長らが参列し、当署は保護管理する地主という立場で参加しました。

来賓挨拶では加藤岐阜署長から夜叉ヶ池の生態系の保存活動の経過説明と岐阜側のボランティアパトロールの発足が紹介されました。

パトロール員の皆さんは腕に腕章を付け、証明書を胸に一般登山者と混じって夜叉ヶ池の生態系の保護・保全を目的にパトロール登山を開始しました。このボランティアパトロール発足の背景には、近年の登山ブームの中で登山者の増加に伴う登山者のマナーが問題となっており、夜叉ヶ池の生態系の悪化が指摘されているところからです。この夜叉ヶ池にはここにしか生息しない希少野生動植物に指定されているヤシヤゲンゴロウが生息しており、その生息数の減少が危惧されているところからです。

現状の課題としては、ゴミのポイ捨てや登山者の尿尿問題、焚き火、ベットの持ち込み、遊泳などによる生態系の悪化が進んでいます。今後、地域の方たちと連携してこの活動を一層充実していくことが、これからの国有林の森林管理を進めていく上で重要であると感じました。

山開きは例年、六月初めに行われていますが、今年は、昨年末からの大雪で路肩決壊や倒木などが発生し、約一ヶ月遅れの開催となりました。夜叉ヶ池の周りには福井県側からも多くの登山者や福井森林管理署のNPOパトロール員も登山しており、両者は、山頂での出会いに新たな保護管理の芽吹きを感じました。



初夏の夜叉ヶ池

初夏の夜叉ヶ池には、のんびり泳ぐヤシヤゲンゴロウの姿があり、山頂にはポランティアパトロールの発足を祝うかのようにニッコウキスゲの黄色い花がやさしく揺れていました。

第四十五回高山植物等保護対策協議会総会を開催

〔国有林野管理課〕六月二十七日、中部森林管理局大会議室において、平成十八年度「高山植物等保護対策協議会」(高植協)の総会が、開催されました。

総会には、長野県山岳協会会長や長野県自然保護連盟会長など二十七名が出席し、環境省長野自然環境事務所長の挨拶に続き、副会長の長江計画部長を議長に選出し、平成十七年度事業、会計の報告及び平成十八年度事業計画、予算案が提案され審議の後、承認されました。

審議の中では、近年増えているペットの持ち込みによる生態系への様々な影響が懸念されることから、具体的な対応策を求める声が出されました。

現在、高山帯へのペットの持ち込みを禁止する法的規制はなく、本協議会として自粛のお願い事例等を作成し、普及啓発を行っていくことにしました。

審議に続いて、各地区協議会長から活動報告がありました。

平成十七年度の長野県山岳地への入り込み者数は前年比十七%減の一、三二四万人でした。

保護取り締まり状況では、高山植物の無許可採取、摘み取り、踏み荒らし等が大幅に減少し、処分及び指導者数は四、五九七人と昨年比七%減少しています。

違反者数の減少は、モラルの向上といった面もありますが、相変わらず目に付きにくい場所での盗掘跡があることや、写真撮影時による踏み荒らしが際だつた事から、あらゆる機会や場所での啓発活動が必要といった意見が出されました。

また、近年登山道へマウンテンバイクを持ち込む事例が増加している報告もありました。

高植協の平成十八年度の事業計画としては、

- 一 高山植物等の保護思想の高揚
- 二 高山帯へのペットの持ち込み自粛への指導
- 三 保護パトロール強化及び強化週間の実施

等を目標に、国民的財産である高山植物や、それを取り巻く自然環境を守り、次の世代に引き継ぐために、積極的な保護



高植協総会の様子

活動を進めていく確認がされました。

当日は環境保護意識の高まりからか、テレビ局三局、新聞社六社が取材に訪れPRの一助になりました。

残雪とブナ林

第一回森林パノラマウォークを開催

〔指導普及課〕六月十七日、第一回森林パノラマウォーク「新緑の関田山脈を歩く」を飯山市の関田トレイルコースにおいて開催しました。

「森林パノラマウォーク」は、昨年度まで開催していた森林倶楽部を、年間の会員制から毎回参加者を募集する方法に変更したもので、本年度は年二回のイベントを開催することとしています。

第一回のイベントには、長野県内及び県外からの応募者六十六名の方が参加し、局、北信署、地元信越トレイルクラブのインストラクターの案内により、関

田峠から牧峠までの約五キロのトレイルコースをトレッキングしました。

関田山脈は、新潟県と長野県の県境に連なり、ブナ林を中心とした豊かな自然が魅力となっています。

今年は、昨年の大雪の影響によりトレイルコースには、場所によって一対以上の雪が残り、急な斜面では残雪により足元が滑り易くなっており、恐る恐る歩道を下る参加者も見受けられました。

また、トレイルコースの歩道沿いには、オオイワカガミ等の植物や、ブナの稚樹が一面に発芽している様子、モリアオガエルの産卵などにも出会え、貴重なものを見ることが出来たと参加者から大変喜ばれました。

天候にも恵まれ、ブナ林の自然を満喫した一日となりました。



ここにモリアオガエルがいるのですよ



保安林等制限林研修を開催

【計画課・治山課】六月二十六日から二十八日の三日間、平成十八年度業務研修保安林等制限林研修が局研修所で開催されました。

この研修は、保安林等制限林の知識を習得することにより、適正かつ円滑な業務に資することを目的に今年度から開催することとなったもので、各署から新任の経営・管理・森林ふれあい・森林育成・販売・治山・土木といった幅広い分野の担当係長計十五名が受講しました。

初日は、治山課長をはじめ、治山課企画官や保安林係長から、保安林行政全般・保安林制度の概要と地球温暖化防止対策における保安林の重要性・保安林制度上の手続き等についての講義が行われました。

二日目は、「目で見る制限林」をテーマとして、現地検討を初夏のさわやかな風の吹く青空の下、国定公園や保安林のある東信署管内（北白樺方面）において実施され、同署治山課長の案内により、現地見学を実施し、理解を深めました。

三日目には、局研修所にて、企画調整室監査官や計画課森林施業調整官から、伐採協議や自然公園法全般についての講義が行われ、受講生は、真剣な眼差しで耳を傾けていました。

三日間という限られた期間での研修で

したが、受講生が各職場に戻ってから、今回の研修によって得られた知見を日々の業務に反映していくことが期待されています。



現地で説明を受ける受講生

各地からのたより

名古屋シティフォレスト事業 (赤沢自然休養林の歩道整備)

【木曽署】五月十日、二十七日の両日にかけて名古屋シティフォレストの隊員延べ五十三名が参加し、赤沢自然休養林の歩道整備を実施しました。

遊歩道の地表土が流れ木曾ヒノキ等の樹根が露出（根走り）しているため、その樹根の保護と利用者の安全を確保することを目的に、一昨年よりボランティア等の協力を得ながら、遊歩道にヒノキ等の木片と樹皮を敷き詰める「チップ舗装」を進めています。今回は利用者の多い「駒鳥コース」のうち、ヒノキ大樹を中心とする約三百メートルの区間で木片チップの運搬と敷き詰めを行いました。

作業現地まで片道約七百メートルの間を一輪車やリヤカーを使う一方で、ビニール袋を肩に担いで運搬したことから大変な重労働となりましたが、隊員の皆さんは手際よく黙々と作業をこなし、何回も往復している姿が見られました。

予定していた作業も無事に終わり、整然と敷き詰められた歩道に隊員の皆さんからは「チップの運搬は大変だったが、木曾ヒノキの森林の中を、川のせせらぎ、小鳥のさえずりを聞きながらの作業は心地よかった。」といった感想が寄せられました。

当署では、今後とも関係方面からの協力をいただきながら赤沢自然休養林内の歩道整備を進めていくこととしていきます。また、早朝から名古屋方面等、遠方より来て一生懸命作業をしていただき、また多くの隊員の皆さん方に感謝する二日間でした。



遊歩道のチップ敷き詰め

「未来世紀へつなぐ緑のバトン」 植樹祭の開催

【木曽署・ふれあいセンター】昭和五十九年九月十四日に発生した長野県西部地震では二十九名の尊い命が失われ、愛知用水の水瓶である牧尾ダムの水源地にあたる国有林では森林の消失、土砂流出等の甚大な被害を受けたところで、その後の復旧治山工事や「国民の森」造成事業等、木曾川上下流域の人々の絶え間ない努力により緑が甦りつつあります。

今もなお災害の爪痕を残す荒廃地へ緑の再生と上下交流の一層の促進を目的に、平成十三年度から「未来世紀へつなぐ緑のバトン」（実行構成団体・王滝村、中日新聞社、独立行政法人水資源機構、中部森林管理局）を行い、植樹・育林作業を展開していますが、六回目となる植樹祭を五月二十七、二十八日の両日にわたり王滝村柳ヶ瀬地区で開催しました。

初日の二十七日には中部局から木内総務部長が出席したほか、中日森友隊、愛知用水土地改良区等、上下流域の関係者約二百五十名が参加し、家庭で育てたどろぐりの木（ミスナラ）等を約千本植栽しました。

現地は、地震でできた土砂堆積地で、植穴を掘る作業では唐鍬やスコップが思うように入らず参加者は悪戦苦闘していましたが、木曽署・ふれあいセンター職



植栽する下流域の小学生と柳沢署長

員の指導のもと、豊かな森になるよう、それぞれが願いをこめながら丁寧に植え付けを行っていました。

また当日は、地震災害復旧地「国民の森」等への見学会も併せて行い、緑に甦った復旧地を目の当たりにし、松田技術専門官からの復旧概要等の説明に見学者は熱心に耳を傾け、森林の役割や治山事業の重要性について理解を深めていただくことができました。

このほか、会場では災害復旧までの歩みを紹介したパネルの展示や地域の特産品販売等も行われ、一層の上下流交流の推進が図られた有意義な二日間となりました。

「白川の源流を訪ねて」

【東濃署】岐阜県加茂郡東白川中学校一年生三十八名は、六月十四日、緑の少年団活動の一環として、ふるさとを流れる白川の源流、加子母本谷国有林で水を採取し、白川の水、下流の美濃加茂市の

川の水との成分比較調査を行いました。緑の少年団は「ふるさとの自然を守る」をテーマに、昭和四十四年の結成以来、豊富な森林の中で、地域と一体となった自然環境の保全活動に取り組んでおります。

体験の中で、生徒達は源流に生息するサンショウウオを観察したり、同行した緑の少年団団長から自然の大切さ等について森林の生態の話聞き、興味深く耳を傾けていました。

また、当署からは森林官がパネル等を利用して国有林の組織や仕事内容、森林づくり等について説明し、水と緑に溢れる国有林の自然の中で体験学習を終えました。



雨を降らせたらどうなるかな

「木の文化を取り戻そう」と

久保田署長が講演

【南信署】六月二十三日、上伊那農業高校の中の原農場ログハウスにおいて、六月の例会として「第八十二回みどり塾」

が開催され、久保田廣署長が「日本の文化は木の文化」と題して塾生三十名余に講演しました。みどり塾は、地域の学舎として上伊那農業高校の農場の一角にあるログハウスを開放して、地域住民が農業や森林、環境をテーマに自由に学び自由に語り合う学習の場として、平成十一年二月に発足し、会員六十数名の団体です。

久保田署長は、「木の文化は縄文時代から培われ、仏教の伝来と日本独特の四季を通じて更に磨きがかかり形作られてきました。しかし、明治維新による神仏分離令、世界大戦後のアメリカ風の生活様式により、木の文化が捨て去られようとしています。二十一世紀は今まで培ってきた知恵と経験、技術を回帰すべき時期」と力説し、国有林が進めている「木の文化を支える森林づくり」や「木づくり運動」等をパワーポイントで紹介しながら、地球温暖化防止のための二酸化炭素の排出量規制、木材の効用、木材の二酸化炭素の吸収量、木材の使用量にまで言及し、最後に「木をつかい、森林をつくって、止めよう温暖化」と提言し、「小さな事からやらいか」と呼びかけられました。

また、この日は「ほう葉巻」作りも前半に体験されたことから、後で軽い茶会が催され、塾生から木材の輸入に関する質問や木質バイオマスでのペレットの需要拡大の方法等について意見交換がなされた。



みどり塾で久保田署長の講演風景

れ、プラスチック製品でなく木の製品にしたい、森林づくりに貢献したいとの意識も高まり、みどり塾の活動の方向として国有林をフィールドとした森林整備等を進めることとなりました。

「遊々の森」で

森林ボランティアパトロール

高山市立栃尾小学校

【飛騨署】栃尾小学校は、本年度二回目「遊々の森」の活動として七月十日、穂高国有林の治山事業施工地及び平湯国有林の「遊々の森」において、治山教室と森林パトロールボランティア活動を実施しました。

午前中の治山教室では、治山工事施工地の見学や当署職員手作りのパネルで治山工事の重要性や森林の大切さを学習した後、北アルプスの山々を望みながら、現地での植生と合ったミスナラやヤマザクラ等の苗木を鍬やスコップで丁寧に一人三本の記念植樹を行いました。



記念植樹をする児童

また、午後からは、当署で取り組んでいる「森林パトロールボランティア」団体の一つである名古屋市の「ふわく山の会」会長久敏雄さんより「自然に親しむ気持ち大切にゴミ拾いなどの自然保護活動に取り組んでいる」と自然を守ることの大切さの話聞き、一日森林パトロールボランティア員として、同団体員五名と一緒に平湯キャンプ場から森の巨人たち百選の一つ「平湯大ネズコ」への登山道において、樹名板の取り付けやゴミ拾いを実施しました。

このボランティア活動には、平湯巨樹・巨木保全協議会長、飛騨北アルプス自然文化センター、飛騨農林事務所が協力して、地域と連携した取り組みになりました。

当日は、新聞社の取材もあり、記者から感想を聞かれた今田早紀さん(十一歳)は「森は災害を防いだり二酸化炭素を吸ってくれてわたしたちの生活を守ってくれていることがわかりました。」と答えていました。

平成17年度 中部森林管理局長賞(金賞)の作品



「自然は友達 ゆかいな冒険隊」

小学生高学年の部 佐伯 隼一



「清香」

中学生の部 神谷 碧里

作品募集!

森林の絵画コンクール

幼児及び小中学生の皆さん! 森林に対する思いを描いてみませんか、あつたらいいなこんな森林そんな夢のある森林を

テーマ等

・テーマ
森林へ行った時の楽しい思い出や「こんな森林があつたらいいな、こんな森林をつくってみたいな」という夢のある絵とします。

応募作品

・応募作品
4つ切りサイズ以内の画用紙に、クレヨン、パステル、水彩絵具、色鉛筆等で描いた未発表作品とし、応募点数に制限はありません。

応募資格

・応募資格
幼児及び小・中学生とします。
《幼児、小学生低学年(1〜3年生)、小学生高学年(4〜6年生)、中学生の部門に区分します》

応募方法

・応募票
応募票に氏名等を記入し、作品と一緒に送りください。
なお、作品は折れ目の付かないようにしてください。

応募票は、ホームページから入手できます。
ホームページアドレス
<http://www.mori758.go.jp/>

締切
平成18年9月15日(金)

応募先

〒456-8620
名古屋市中熱田区熱田西町1-20
中部森林管理局名古屋事務所内
「森林の絵画コンクール係」宛
TEL052-683-9206
IPO50-3160-6660

入賞者の発表と表彰

・発表...10月上旬
・表彰...入賞作品は、4部門とし、賞の区分は中部森林管理局長賞(金賞)・中日新聞社賞(銀賞)・中部日本治山治水連盟賞(銅賞)

各1点及び中部森林管理局名古屋事務所長賞(佳作)2点とし、賞状及び楯を授与します。また、協賛各社による副賞を贈呈いたします。

なお、表彰式については別途入賞者にお知らせします。
・入賞作品の展示...森林交流館(愛知県瀬戸市川平町1番地)等で展示予定です。

●作品の版權等
・応募作品の著作権・版權は中日新聞社・中部日本治山治水連盟・中部森林管理局に帰属するものとします。

主催
林野庁中部森林管理局名古屋事務所
中日新聞社・中部日本治山治水連盟

協賛
連盟
ぺんてる株式会社



実験林・試験地等紹介



「森林技術センター（木曽）」赤沢自然休養林内の「ヒノキ植物群落保護林」に設定しているこの試験地は、照度不足となつている天然ヒノキ林の択伐を行い、林内の光条件を改善することにより、稚樹の発生を促し、後継樹の育成を主眼とした天然更新施業の確立を図ることを目的としています。

調査地の上層木は、ヒノキ、サワラ、アスナロで、赤沢の天然林の主要を成しており、平成十七年は、鈴生りに種子を实らせるヒノキがよく見受けられたことから、豊作の期待が高まり種子豊凶調査を実施したので紹介します。

現有林内と伐採後によるギャップ箇所写真のトラップ（〇・五㎡）を合計十三箇所設置し、九月から一ヶ月毎に回収を行い種子量及び発芽率（発芽試験依頼・森林総合研究所）を調査しました。

九月から今年四月までにヒノキの種子は〇・五㎡当たり多い箇所で三、四五百粒、少ない箇所で二五〇粒林床に供給された結果となり、発芽率は平均で六十割であったことから少なくとも三百万本／haのヒノキ稚樹が発生することとなります。

す。

試験地では、写真のような発芽も確認され、今後は稚樹の発生・消長を調査し検証したいと考えています。

近年、木曽地方では国有林以外の研究機関による豊凶調査が実施されていないことから、今回の調査は貴重なデータとなるとともに、今後も継続することにより天然更新施業体系確立の一翼を担うものと考えています。

◇所在地：長野県上松町
小川入国有林八十一林小班



リッタートラップ



種子の発芽状況

ふう けい き こう
風景紀行
せせらぎ街道
飛騨森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)

◇せせらぎ街道

「飛騨」 高山市の南西部に位置する清見町に西ウレ国有林があります。この国有林を横断する形で高山市から郡上市に抜ける「せせらぎ街道」では、四季折々に姿を変える美しい風景がドライブの目を楽しませてくれます。

静寂の中、雪に覆われ堪え忍ぶ姿は、まるで水墨画のようです。その後、融雪とともに沿線の木々が春の訪れを知らせる新緑のトンネル。更に、街道に並行して流れる溪流が、蟬の声と浅瀬の水音だけをBGMに、木漏れ日に輝く夏。そして、何といっても圧巻は秋！...。

例年、十月中旬から十一月にかけて西ウレ峠（標高一、一三〇m）付近は、紅葉一色となります。カラマツの朱色をベイスに、同系色のイタヤカエデ、ブナ、ナラ、トチなどがメリハリと深みを添え、ハウチワカエデの燃えるような赤と、散りばめられた銀糸を連想させるシラカバ

の樹皮の色…。その光景は、まさに金屏風そのものです。機会があれば是非ご覧ください。

また、この西ウレ峠は太平洋側にそぐ馬瀬川と日本海側へと向かう川上川との分水嶺で、それぞれの源流部が道脇より眺められることから、多くの方々が立ち寄られます。

◇アクセス方法

高山市役所清見支所（旧清見村役場）から県道七三号線（主）「高山清見線」を郡上市方面へ車で約三〇分



冬のせせらぎ街道



夏のせせらぎ街道

行事・会議等の予定

◎ヒメバラモミ検討委員会

8月4日 中部森林管理局

◎森林ふれあい講座

8月20日 愛知所管内